

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401012
法人名	社会福祉法人 幸和会
事業所名	グループホームなかよし
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名373-2 (電話) 0957-20-0057

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月31日	訪問調査日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成20年1月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	0 円		

(4) 利用者の概要(1月 4日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	0 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島原保養院 ・ 安藤病院 ・ 土井歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町のほぼ中心部にある当ホームは、住宅地と隣接していながらも静かな環境にある。近くには役場、中学校があり、国道に向かって徒歩で程よい距離に商店があり、利用者が買い物を楽しむことができる。同法人内のデイサービス施設、グループホームが近隣に他に3施設あることから、合同の行事も多く、馴染みの地域の方との行き来も自然と多い。併設して母体病院がある為、医療連携の点で安心できる生活が提供されている。施設内のリビングは窓が大きくとられ、広々として居心地がよく、午前中、昼食をはさんで、午後もおしゃべりをされたり、新聞を読んだり寛いだ穏やかな様子が窺えた。職員の干渉しすぎない、利用者本位の自然で温かな支援がここにある。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義と活用をよく理解し、改善項目を検討し、改善計画シートを作成し、改善に取り組んでいる。介護計画の作成や見直しは職員全員で取り組み、記録方法等、試行錯誤しながら継続中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には職員全員で取り組む事とし、今回は項目を振り分け、それぞれが担当して取り組む形とした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容とそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の開催とし、市役所職員、民生委員、家族代表、スタッフにより会議メンバーは構成されている。会議の進行、理解が得られやすいように配慮し、毎回、丁寧な資料を配布した上での活動報告を行い、モニター役を担って頂いている。今後は地域近隣代表の会議参加を働きかけ、会議と地域との関わりを充実を図るよう、検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、日常的に家族訪問、面談の際は意見を伺うよう心がけており、意見箱の設置もしている。年4回計画している「家族交流会」では、利用者と家族が共に会食等楽しい時間を過ごす目的の他、家族同士の交流、アンケートに回答を頂くなど、家族の意見の吸い上げの場面作りとして取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との交流は保育園、中学校の行事参加等活発に行なわれている。豆まき、納涼祭などホームの行事案内を積極的にこなしているが、その取り組みを有効なものとする為に、自治会・老人会への加入等の働きかけが望まれる。今後は、理念に沿った地域との双方向の協力関係に発展されることに期待したい。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳と居場所作りをまず念頭に大切に考え、思いやりと家庭的な優しさという理念の具現化を目指している。加えて地域に対する社会貢献、地域に向けての取り組みも掲げて、法人、事業所の理念としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関正面等、ホーム内の見やすい場所へ掲示されており、朝のミーティング時に職員は確認し、意識付けを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園にはクリスマス会への参加、中学校の体験学習の受け入れ等、地域との関わりを持つ為の取り組みに努めている。豆まき、納涼祭等、ホームの行事への参加呼びかけを近隣にチラシを配布して、積極的な試みも行ったが、反応は得られなかった。		法人内の施設との合同行事や行き来により地域の馴染みの方との交流はあるが、更に地域、近隣との交流を広げ深めていく為に、自治会加入を、まずきっかけとされる事に期待したい。ホームの取り組みへの理解、協力がより得られることが期待できる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のサービスの振り返りの場として、評価の意義と活用をよく理解しており、全員で取り組んでいる。今回の自己評価は項目をそれぞれ職員に割り当て、担当した部分を評価し全体をまとめた。又、改善計画シートを作成し、改善に向けて努力している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、利用者、職員の活動等ホームの取り組みの報告を行っており、モニターの役割を担って頂いている。H20年1月の会議には、全家族に会議出席を呼びかけ3家族に出席頂いた。		

グループホーム なかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当職員の異動が年に1回はあり、現時点での連携は困難である。以前は法人内の在宅介護支援センターを通じての行き来があり、必要性を認識した上で運営推進会議、近隣事業所との連携を通じて、今後は情報収集、交換を図っていくよう検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りを発行しており、利用者の写真や活動報告、行事予定に加え、個別に近況報告も添えている。なるべく家族にホームへ訪問して頂けるようにとの配慮から毎月、利用料の支払いに来て頂くようにしており、その折にも報告等を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に話を伺うよう努めており、玄関に意見箱も設置している。4ヶ月に1度、「家族交流会」を行っている。利用者と共に食事を作り、会食し、レクリエーションに興じたり、ケアプランについて個別に話し合いを設けたりと、半日を有意義に過ごす取り組みで、利用者、家族にも喜ばれている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の4つの施設と母体病院の病棟において、定期的に職員の異動がある。年2回全体での職員の交流会も開かれ、合同の行事も多い。異動がある場合は利用者が安心できるケアに最大限、配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状では内部研修が主になっている。法人全体での学習会があり今年度は4回参加している。毎月1回グループワークの中で勉強会を兼ねている。しかし、外部研修は機会と職員の参加希望はあっても、人的配置の問題もあり、ほとんど参加できないでいる。		外部研修を受ける機会の確保、研修計画の充実が望まれる。勤務体制における人員配置が厳しいという問題を検討、解消されて日常的に働きながら学ぶ為の取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H19年8月に医療法人系の連絡協議会に加入した。更に情報の共有化や悩み、課題の解決を図り、それぞれのケアの質の向上を目指す為に連携をということで、町内の他の2事業所と身近な小規模のネットワーク作りを計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学はもちろん、馴染んでいただくためにホームで昼食をとって時間を過ごしてもらなどの体験入居もして頂いている。ホームでのサービス開始時には、それまで利用していた法人内のデイサービス、母体病院の病棟を訪問したり、老人会に参加しながら、地域の馴染みの人と会う機会を多く持ち、馴染めるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の暮らしの中で、時に職員が悩みを打ち明け、利用者に聞いてもらう場面もある。利用者から年長者としてのアドバイスがあったりと、日々を共に過ごす者同士としての信頼関係もあり、職員は安らぎ、癒されることもある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話、様子から利用者の意向を把握するよう努めているが、基本情報、生活歴の職員全員による把握が書類上で不足している。</p>		<p>利用者の誕生から、現在に到る生活歴、今ある「その人像」といった、一見して誰もが分かり、ケアのキーポイントに繋がる記録の作成を期待したい。又、職員の異動が定期的にあることも踏まえ、職員全員が共有できる記録があることで、更なるケアの質の向上に期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者のみで行っていた部分を見直し、職員が状況を把握し、関わることができるよう担当制にして、家族の意見を伺いながら計画の立案を行なっている。又、全員で検討して詳細な計画を作成し、作成後は家族の同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは特に変化がなければ、半年に1回、変化があった場合は随時短期間での見直しを行なっている。モニタリング、計画の修正も全員で行っている。又、記録様式を前回評価の指摘に基づき、改善に向けての取り組みが継続中である。</p>		

グループホーム なかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のデイサービス、グループホーム等、4施設合同行事が、月に1度行われている。デイサービス内のリハビリ施設の利用もされている。又、家族交流会や宿泊も可能であり、柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方の病院受診は家族対応となっている。又、循環器の医師が2週間毎に往診している。母体病院がかかりつけ医のため、連携が十分に取れる状況である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化・終末期のケア対応方針を基に話し、家族の同意を得ている。現時点では看取りの実施はなく、医療行為が重度になると医師の見極めにより、母体である病院へ入院が殆どである。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の入居者への言葉かけ、対応には配慮しており、記録物等は事務室にて保管、管理がなされている。しかし、毎月作成している便りの配布・掲示に関する、本人又は家族の同意は得ていない。		写真、実名の記載があるホーム便りの取り扱いに関して、家族に送付する以外に法人内施設、地域への回覧掲示する場合は、入居者、家族の了解を得るなど、個人情報保護に基づいた配慮が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、思い思い自由に過ごして頂いている。午前中は昼食の準備をされる方、買い物に外出される方と活発に過ごされ、午後は入居者同士おしゃべりに興じられたり、新聞を読む方、居室で午睡をとる方と一人一人のペースを大切にしている。		

グループホーム なかよし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下拵え、配膳、下膳、食器拭きまで利用者それぞれのできる範囲でされている。職員も円卓や炬燵で利用者と共に食事をし、会話が途切れる事のない和やかな時間としている。季節感を大切に、行事食を取り入れ、お彼岸には全員での手作りのおはぎを手土産に家庭訪問も行った。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴が可能な支援がなされている。体調、状態に配慮しながら、2ヶ所ある浴室を有意義に活用し、入居者の希望に沿った支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、趣味嗜好に沿った役割を取り入れて生き活きたした生活に向けた支援がなされている。食事の下拵え、洗濯物たたみ、晴雨表の毎日の正確な記録など利用者は楽しみながら役割を担っておられる。デイサービスとの合同で陶芸体験、体操、足つぼマッサージ、毎月のレクリエーションと楽しみごとの機会も多い。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	徒歩で程よい距離に入居者の家族が勤める商店があり、買い物に楽しく出かける支援がなされている。すぐ近くのデイサービス施設には馴染みの地域の方もいて行き来をされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけていない。母体病院と同敷地内でもあり、すぐ傍には同法人内の施設があり、施設職員からの見守りも自然となされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、6月と11月に消防署立会いの火災訓練を行っており更にホーム独自に夜間想定で利用者と共に訓練を行っている。現時点では地震や水害の訓練実施やマニュアルはなく、非常時の備蓄品も不十分である。		火災に対する備えは十分に現在もなされているが、地震等の災害に対する訓練、対応マニュアル作りへの取り組みを期待したい。更に万全を期す為に、非常用食料、備品の備蓄の準備、持ち出し品の確認など再考、検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体病院の指導により、量とバランスの管理がなされている。利用者の状態に配慮し、形態食の対応もされており、食事、水分の摂取量は毎日バイタル表に記録され、体重も月に1回計測している。水分摂取には注意し、居室に持っていただけるようペットボトル入りのお茶を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々とした空間が広がり、窓も大きくとってあるためとても明るい。食堂のテーブルは大きな丸テーブルで、食卓での団欒を楽しみやすくし、ゆったりできるソファのコーナー、バリアフリーの畳のコーナーには炬燵もあり、各自で寛げる空間作りがなされている。壁に貼られた職員手作りのカレンダーは、月毎の行事や季節感が盛り込まれており、温かみを添えていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、清掃、換気が行き届き、清潔で快適な環境である。備え付けのベッドの他は収納設備等はないが、箆笥、衣類収納ケース等の持込の家具で整理されており、小さな机、仏壇、じゅうたんなど使い慣れた利用者の持ち込みの家具、壁に飾られた写真など、各自居心地のいい居室作りがなされている。		